

SNIA - J

ストレージネットワーキングに関するユーザーの掘り起こしと需要拡大に向けた活動を推進

SAN & NAS 関連の
世界最大の業界団体

本格的なIT社会の到来により、これまでの予想を越えて爆発的な情報量が増大している。このような環境下で大容量の情報を効率に管理、運営するには、標準化されたストレージネットワーキング技術が不可欠である。

ストレージネットワーキング・インダストリー・アソシエーション(SNIA)は、ストレージネットワーキングの開発者をはじめ、システムインテグレーター、アプリケーションベンダー、サービスプロバイダ、そして多くのユーザー企業が一堂に介してストレージネットワーキングの発展に向けた結束の場を提供する非営利団体として、1997年に米国で発足された。以来、ストレージネットワーキング技術、教育、啓蒙、標準化といった活動を展開し、今日では、SANおよびNAS関連では、世界最大の業界団体に発展している。特に標準化に関しては、ファイバチャネル、運用、バックアップ、ファイルのネットワークアクセスに加えて、SAN関連製品の相互接続性を検証することを目的とした、大規模なInteroperability Laboratoryを米国に開設し、その成果のデモンストレ

ーション活動も行っている。

このSNIAの活動を日本国内において展開するために、2001年8月に、非営利団体「ストレージネットワーキング・インダストリー・アソシエーション日本支部」(以下、SNIA-J)が設立された。

SNIA - Jのビジョンと活動内容

SNIA-Jは、ストレージネットワーキングの普及・発展を加速することによって、国内のストレージ関連市場の活性化を図るとともに、日本の国際的競争力の維持・強化に貢献していくために、SNIAとの連携に基づきながら、国内におけるストレージネットワーキング技術の普及とビジネスの促進に寄与する活動を推進することをビジョンとして掲げている。設立3年目にあたる2003年度(2002年12月～2003年11月)は、「エンドユーザー指向活動の強化」という観点から、国内市場動向調査の実施、東京および大阪におけるストレージ入門セミナーの開催、SNIA-Jが主催する「Storage Networking World / Tokyo(SNW)2003」にて、17セッションにおよぶSNIAチュートリアル開催などを行った。また、

SNWでは、SNIAが推進しているストレージ管理の標準化「SMI-S (Storage Management Initiative Specification)」をはじめとした相互接続性の実機デモンストレーションを会員企業の参加のもと実施した。この取組みに対しては、SNIAがカバーする相互接続性の範囲をグローバルに拡大したとして、SNIA本部から高い評価を得た。

そして2004年度(2003年12月～2004年11月)は、2003年度の成果の維持・拡大に加えて、より充実・拡大した活動を展開している。具体的には、SNWの主催者としてイベントの強化を推進と、SNIA全体の当面の重要課題であるSMI関連活動の国内普及活動や国内企業の参加支援。ネットワーキングストレージに関するユーザーニーズの掘り起こしと、需要拡大に結び付けるためのエンドユーザー向け活動の継続・強化などに取り組んでいる。

現在(2004年8月)のSNIA-Jの参加企業は、正会員14社、賛助会員13社、特別会員1団体である。

<お問い合わせ先>
SNIA日本支部
E-mail : office@snia-j.org
URL : http://www.snia-j.org/